【とうきょう　すくわくプログラム活動報告書】

園名：すぎなみのぞみ保育園（1 歳児クラス）

活動日時：2026年5月26日（火）

1，　活動テーマ

＜テーマ＞

園外の施設の広場でコンビカーにまたがったり、押して歩いたりする。

＜テーマ設定理由＞

コンビカーをまたぐ・床を蹴って進すすんだり、バランスを取りながらすすんだりする・押して歩いたり走ったりする等、様々な足の動きを観察することができるため。

2，活動スケジュール

・桃井児童館に行く。
・広場やコンビカーを借りる。
・十分に遊ぶ時間を確保する。

3，活動の為に準備した素材や道具、環境の設定

準備物：園外施設のコンビカー、手押し車
環境設定：桃井児童館に行く機会を設ける、早めに園を出て遊ぶ時間を確保する。

4，探究活動の実践

＜活動内容＞

コンビカーを用意する。使い方が分からない子もいることを想定し、保育者がコンビカーにまたがり床を蹴ってすすむ姿を見せる。コンビカーのみではなく、人数分の玩具を確保するため、手押し車も用意する。もう一方の保育者は、子どもの反応に合わせて手助けや楽しい気持ちに共感して声掛け等をする。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

活動の最初の子どもの姿では、コンビカーに興味を示しまたがろうと足をあげる子、興味はあるもののどのように遊ぶか分からず手押し部分やイラスト部分を触る子、少し気にはするが室内の広さのほうが気になり室内を走り回る子、手押し車が気に入って手放さない子と様々な姿が見られる。

活動中、またがろうとする子には、保育者が手助けしまたがらせると、足で床を蹴ることはなく、まずは乗ることに満足する姿である。満足すると降りようとするので手助けして降ろす。



遊び方が分からない子にも同様に保育者が手助けしてまたがらせようとすると、のけぞり嫌がる子もいる。その為、手押し部分を押す動作を見せるとやってみようとし、押して移動することを楽しむ。保育者や友だちが手押し部分を押している姿を見て、自分もやってみようと自ら遊び始める子もいる。押して歩くことに慣れると、走りだして楽しんでいる。

中には、コンビカーや手押し車のタイヤ部分が動く様子が気になり、しゃがんで観察をする子もいる。

室内を走り回ることが中心な子も、興味がないわけではない様子でコンビカーに触れたりイラスト部分を見たりしているが、またがることは嫌がり押して遊ぶ姿は見られない。

関りとしては、友だちが楽しそうにする姿を見てやってみようとする姿が多いと感じる。保育者は手助けする人、コンビカーに乗り一緒に楽しむ人と分担し、それぞれ子ども達と関わる。

5，振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

初めての園外施設の利用や、初めてクラス活動としてコンビカーで遊ぶ経験のため、様々な表情や遊び方が見られると予想をしていた。テーマには入ってないが、中にはコンビカーに親しみを持つ子もいて足で床を蹴ってすすんで遊ぶ子もいるのではないかと思っていた。実際に遊んでみると、またがることに満足して降りる姿や、手押し部分を押して歩いたり走ったりすることを楽しむ姿が見られ、予想外の姿に驚きがあった。今回の子どもの姿から、足裏の感覚・全身のバランス感覚や使い方等の様々な経験を経て、足で床を蹴ってすすむ感覚も掴んでくるのではないかと感じた。